

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	・学習活動や学校行事、生徒会活動等の充実 ・アンケートによる調査	B	B	B	・今年度は来年度に向けて新たな清瀬祭の在り方を検討するために中止とした。そのため、生徒が活動できる文化祭がなくなることで所属意識が希薄になってしまった可能性がある。 ・部活動に所属する生徒は熱心に活動し、本年度も多くの部活動で各種大会、競技会等で成果を上げることができた。ただし、途中退部する生徒が多く見受けられたので、3年間継続できる部活動選択を促していく。 ・市立学校としての意義を捉え直し、地域への貢献を念頭に置いた活動が積極的に行えた。特に、地元企業と連携した商品開発を行ったり、企業の課題解決に生徒がアイデアを出したり、地元企業の皆さんの協力を受け、学習活動の様々な場面で地域を意識した活動が行えた。次年度以降も同様の取り組みを継続していく。	・1つ1つの行事を盛り上げる工夫をし、その活動の様子を学校外へ発信してほしい。 ・同窓会が新設した報奨制度を活用し、生徒の頑張りを捉えると同時に、生徒が活躍するきっかけとしてほしい。 ・地元企業連携課題解決学習や地域の企業とのコラボ商品開発など、素晴らしい取り組みを実践している。実社会をよい教材として活用してほしい。
		② 部活動を推進している本校の取り組みに所属生徒の80%以上が積極的である。	・活動状況及び大会等の成果の確認 ・アンケートによる調査	B	B	B		
		③ 市立学校として地域社会と連携した活動を積極的に行っていると感じている生徒・保護者が80%以上である。	・市役所やその関連機関、地元企業等との連携の強化 ・アンケートによる調査	A	B	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業が分かりやすい」と感じている生徒が80%以上である。	・きめ細かい指導の実践 ・授業アンケートによる実態把握	A	A	A	・生徒の実態を的確に捉え、授業の個別最適化を図っている。一人ひとりに寄り添った授業が展開できている。 ・各教科において1つ1つの学習内容の理解の定着が図られることにより、資格取得に結びついている。学習の積み重ねの成果として資格取得があり、資格取得を最終目標としないことで、より生徒の実態に即した授業づくりが可能となっている。 ・定期試験前の成績不振生徒に対する学年補習を継続し、学習につまづきのある生徒に対する支援を展開する。 ・予習、復習をしていると回答している生徒が50%未満である。生徒の学習意欲を高められるような方策を考える必要がある。生徒の実態に合わせた課題を与えることにより、家庭学習の習慣化を目指す。	・小中学校段階からタブレットを使用した学習が広がってきている。従来のように資格取得のみにとられるのではなく、今後必要となる新たな資質・能力を育成していくことのできる指導の工夫をしてほしい。 ・専門性の高い学校の中で、課題研究等の特色ある取り組みをより盛り上げていけると、さらに明るい学校づくりが可能となるのではないかと。
		⑤ 資格取得に向けた指導に、生徒の80%以上が満足している。	・資格取得を最終目標としない学習指導の展開 ・アンケートによる調査	A	A	A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が80%以上である。	・学習指導の充実、定期試験対策補習等の実施 ・アンケートによる調査	B	B	B		
		⑦ 意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が80%以上である。	・自ら進んで学ぶとする態度の醸成を目的とした学習指導の実践 ・アンケートによる調査	B	C	B		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 学年会議・校務運営委員会・職員会議等において生徒に関する情報交換を行い、教職員間の情報共有、連携強化を図っている。	・職員会議、学年会議、運営委員会での情報共有 ・アンケート調査	A	-	A	・学年会議、運営委員会、職員会議において生徒の情報共有を行い、全職員で共通認識を持って連携した指導を行っている。フォーマルコミュニケーションにとどまらず、インフォーマルコミュニケーションの場においても積極的に情報共有を図れる環境を整えていく。 ・生徒が主体となって円滑かつ安全に各種委員会・行事を実施できるよう、職員のサポート体制を整える。 ・毎学期安全点検簿を作成し、普通教室や特別教室等の清掃状況および管理状況を把握し、危険箇所や整備不良箇所の発見、修繕を早期に実施している。 ・毎学期にいじめアンケートを実施し、早期発見に務めている。また、いじめと疑われる事案については、いじめ対策委員会を開催し、いじめの認知および対応の協議を行っている。 ・遅刻率は0.8%であり、概ね目標とした数値以内に収まっている。しかし、欠席率が3.5%となっており、昨年の1.8%と比べても大幅に上昇してしまっている。主な要因として、長期欠席者の増加がある。悩みを抱えて登校できない生徒が長期欠席となり、その後転退学するというケースが目立つ。今まで以上に家庭と連携し、生徒の多様性を受容しながらの指導を工夫していく必要がある。 ・90%以上の生徒、保護者が本校の生活指導は充実していると回答しており、本校の生活指導の方針や取り組みが理解されている。社会に出て行く生徒を育てる学校としての役割を継続していきたい。	・概ね初期の目標が達成されている。大過なく教育活動ができたのは素晴らしいことである。 ・ヘルメット着用率が70%程度であり、命を守ることの重要性を認識させ、着用率を高められるように指導してほしい。 ・欠席率の増加は長期欠席者の増加があるようであるが、生徒の様子を把握したり、考えていることをくみとったり、生徒に寄り添った指導をお願いしたい。 ・教員対生徒、生徒対生徒の人間関係、信頼関係を構築して欲しい。
		⑨ 生徒会行事や各種専門委員会など、生徒会活動が充実していると評価した生徒が80%以上である。	・生徒会・専門委員会の充実 ・アンケートによる調査	B	B	B		
		⑩ 校内の美化・安全点検を各学期に1回以上実施している。	・施設委員を活用した校内巡視による点検後、点検一覧表の作成 ・空き教室利用や机・イス等の更新	A	A	A		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪ 学校は、「いじめ防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	・いじめアンケートの実施 ・教育相談アンケートの実施・面接	A	B	A		
		⑫ 家庭との連携を密にして欠席率・遅刻率が1.0%以下である。	・定期的な登校時指導、遅刻防止指導の実施 ・保護者への協力・支援 ・欠席・遅刻・早退率の把握 ・朝読書の実施	C	B	C		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬ 挨拶や服装、遅刻防止指導など学校の生活指導は充実していると感じている生徒が80%以上である。	・定期的な登校時指導、遅刻防止指導・服装指導の実施、保護者への協力および支援 ・アンケートによる調査	A	A	B		
⑭ 学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が80%以上である。			・「進路のてびき」の活用及び「進路ガイダンス」や講演会など外部機関との連携による進路指導の充実 ・アンケートによる調査	A	A	A		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑮ 進路通信を年間10回以上発行し、生徒・保護者へタイムリーな情報を提供している。	・定期的な「進路たより」の発行 ・3学年へは具体的情報を提供 ・アンケートによる調査	A	A	A	・学校から提供される進路情報が役立っていると回答する生徒が90%以上いるのに対し、保護者は80%程度となっている。学校が発行した「進路のてびき」や「進路たより」が生徒から保護者へ渡っていない可能性がある。生徒へ主体的な進路選択を促すと同時に、保護者の理解、同意を得られるよう、しっかりとした情報共有をするように指導を行う。 ・学校から「進路たより」を中心とした情報提供を積極的に行い、早期から進路意識の醸成に努めている。結果として、主体的な進路選択が実現できている。 ・コロナ禍により中断されていた就業体験が本年度から再開できた。生徒にとって就業体験を中心としたキャリア教育の充実が自己の生き方、在り方に与える教育的効果は大きいと考え、今後も継続していく。 ・生徒の個に応じたきめ細かい進路指導が行われ、結果として計画的に進路指導が行われていると回答している生徒が90%近くにのぼった。生徒に寄り添い、3年間を見通した計画的なキャリア形成を促進する。	・多くの上級学校から指定校をいただいております。進学者の大半がその指定校枠を利用して進学している実情がある。進路に対する意識付けを早期に行い、3年間を見通した計画的な学習に取り組ませるように指導してほしい。 ・上級学校へ進学したとしても、いずれは働くという意識を持って進路を考えさせるようにしてほしい。
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑯ 「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について真剣に考えている生徒が80%以上である。	・就業体験等によるキャリア教育の充実 ・ホームルーム活動や教科における進路学習の充実 ・アンケートによる調査	B	B		
	⑰ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。		・キャリア教育の充実 ・早期の進路目標設定と個に応じた指導の実践 ・アンケートによる調査	A	A	A		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱ 学年別保護者会に積極的に参加している保護者が95%以上である。	・各学年保護者会、PTA主催行事等への積極的な参加及び行事内容等の充実 ・ホームページの充実 ・地域社会への情報提供	C	B	B	・行事等の精選によりPTA主催行事は数を減らしている。そうした中で学校の状況を知っていただく機会として保護者会が重要な位置づけとなるが、各学年とも保護者会出席率が90%程度となっている。学校の状況を知っていただき、家庭と連携して生徒の望ましい育成を図るために、保護者会を出席する価値のあるものとしなければならぬ。 ・学校説明会やオープンスクールにおいて本校の取り組みを広報した結果として、志願倍率の増加につながった。また、部活動を中心として地域の諸活動へ積極的に参加することで本校の活動に評価をいただくことが多かった。	・中学校への出前授業や学校説明に積極的に向向くことで、志願者数の増加につながっている。今後も継続してほしい。
		⑲ 学校説明会、オープンスクール、保護者参加事業等で学校の教育活動を理解できたと感じる参加者の割合が90%以上である。	・文化部及び運動部を中心とする各種カルチャー教室の充実や地域諸行事への積極的参加 ・桐商たよりの配布 ・アンケートによる調査	A	B	B		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ ICTを活用した授業に、生徒の80%以上が満足している。	・積極的な授業への取り組みを目指した指導の実践 ・ICT活用に係わる研修の実施 ・校内研修テーマに基づいた授業研究の実践 ・アンケートによる調査	A	A	A	・各教科において、授業における効果的なICT活用が積極的に行われている。言葉では伝わりにくい内容を視覚的に提示することにより、生徒の理解が深まっている。教員側の授業改善にもつながり、今後も指導場面的に捉えた効果的な活用を継続していく。 ・Webページの更新頻度を高めたり、内容の検討等を繰り返すことによりアクセス数が飛躍的に伸びた。ICTと書面の併用により、保護者が知らなかったということがなくなり、情報到達率がかなり高まったといえる。	・学校Webページやメール連絡網だけではなく、SNSを活用した情報発信をさらに積極的に進めてほしい。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑳ ふれあいメールや本校Webページを活用した通知に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	・書面と併用することによる情報到達率の引き上げ ・ふれあいメールへの登録率向上 ・アンケートによる調査	A	A		